

令和5(2023)年度 須坂市立仁礼小学校 グランドデザイン

【学校教育目標】よく学び よく遊び たくましく

【保護者・地域との連携】

- ①通信やホームページ等の情報発信
- ②授業参観、保護者懇談、家庭訪問
- ③PTA活動の充実
- ④学校評価の活用
- ⑤信州型CS運営委員会の推進
- ⑥地域ボランティアとの連携

【めざす学校像】

- ①すべての児童に居場所があり、一人一人を大切に温かな学校
- ②学校内外の様々な課題について協働しながら解決していく学校
- ③児童・保護者・地域から信頼される学校
- ④地域と共に歩む学校
- ⑤職員が一つになる一枚岩の学校

【第2次須坂市教育大綱】

《基本方針 2021-2025》

- 「多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち」
「子どもの個性と力がのびのび育つまち」
「一人ひとりが学び、高め合うまち」

【重点目標】自己肯定感を育み、学び合い、高め合う学校づくり

【めざす子ども像】

- ①「考えたい」「やってみたい」「表現したい」と自分から動き出す子ども 「〇〇したい」と言える子【動く】
- ②多様な考えや立場を受け入れ、認め合える思いやりのある子ども 「いいね」「すてきだね」と言える子【思いやり】
- ③いろいろな人と関わり、力を合わせて問題を乗り越えようとする子ども 「いっしょにやろう」と言える子【関わる】

【3本柱プロジェクト】 ◎すべての教育活動を『めざす子ども像』につなげます

【学力向上・授業改善】

- (1) 学力のとらえ
①自ら学ぶ力、協働する力 ②問題発見・解決力
③基礎・基本
- (2) 3つの学力をバランスよく育むための学習
①「教師主導型授業」と「子ども主導型授業」をバランスよく行うことを目指します。友達と関わる時間の確保、「話す・意見を述べる・考える」などの表現の場の設定、子どもが自分の必要感を感じて取り組む家庭学習のサポートを目指します。
②学ぶ目的や伝える相手を明確にし、子どもたちの納得を重視した活動を設定し、子どもの「やりたい」「知りたい」が生まれる授業を目指します。
③基礎的な知識・技能の定着、思考力・表現力の向上を目指し、授業やスタディタイムにおいて一人で学習に取り組む時間を活用し、「わかった・できた」といった実感を伴う学習を目指します。
- (3) 学習環境の充実・活用
①豊かな仁礼の自然を生かした活動を取り入れます。
②地域の「ひと」と関わる機会を作ります。
③ICT環境を活用し、子どもの学習をサポートしていきます。

- ※「教師主導型」…学習の方法、形態、計画をある程度教師が提示し、全体が同じ進捗で進めていく従来型の授業スタイル
※「子ども主導型」…学習の方法、形態、計画を、子どもが各自で選択し、個別の進捗で進めていく新しい学力観に基づいた授業スタイル

【児童理解・生徒指導】

- (1) いじめの根絶をめざし、多様な考えや立場を受け入れ、認め合える、思いやりのある子どもの育成
○異学年交流・縦割り班活動を、年間を通して行います。
・縦割り班清掃の期間延長
・児童会祭り・集会等での交流
○人権教育・道徳授業の充実を図ります。
・人権旬間の活動の工夫
・情報モラル教育の実践
○定期的なアンケート調査、Q-U調査の実施、アンケートを受けての児童との個別相談週間を実施します
○職員間での児童理解を充実させ、職員および関係機関で手を組み、チームで対応します
- (2) 園小中の連携を図り、園小で学んだことを生かしながら、小学校にスムーズに移行していけることを目指します。

【学校安全・健康環境】

- (1) 安全教育
児童一人ひとりが、安全について「自分ごと」として考える姿を目指します。
- (2) 保健教育
自らの体に興味・興味を持ち、自己管理していく力を育みます。
- (3) 食育
栄養教諭や須坂市健康づくり課と連携しながら授業づくりをしています。
- (4) 環境教育
生命を尊重する気持ちや、思いやりの心を育みます。
- (5) 清掃指導
過ごしやすい環境について考え、主体的に清掃に取り組む姿を目指します。縦割り班での清掃も実施します。

1 本年度の重点

(1) 3つの『めざす子ども像』

- | |
|--|
| ① 「考えたい」「やってみたい」「表現したい」と自分から動き出す子ども
～「〇〇したい」と言える子【動く】～ |
| ② 多様な考えや立場を受け入れ、認め合える思いやりのある子ども
～「いいね」「すてきだね」と言える子【思いやり】～ |
| ③ いろいろな人と関わり、力を合わせて問題を乗り越えようとする子ども
～「いっしょにやろう」と言える子【関わる】～ |

(2) すべての教育活動を『めざす子ども像』につなげていく。特にプロジェクトチームの取り組みを中核として『めざす子ども像』に迫っていきたい。

【プロジェクトチーム】 A学力向上・授業改善 B児童理解・生徒指導 C学校安全・健康環境
--

(3) 先生方一人一人が共通の目標である『めざす子ども像』を実現させる主体となり、自分の強み（自分なら何ができるか）を出して自分らしくやっていただきたい。様々な教育活動が与えられたものではなく、自分事として受け止めていただきたい。

2 よい関係性を基盤に

よい関係性が、よい考えを生み、それがよい行動につながり、よい結果がもたらされ、そして、さらによりよい関係性がつくられていく。 成功の循環 ～ダニエル・キム～

(1) 先生方が互いに連携・協力し、工夫してつくりあげる教育活動や、子どもたちが主体となって展開する取り組みを大切にしたい学校づくりをしていきたい。そのためには先生方のよい関係性が基盤になると考えている。

(2) 先生方が互いの個性を大切にしようことは、多様な子どもたちを大切にすることにもつながると思っている。全校一律に取り組む場面もちろんあるが、心は多様性を尊重し合える、そんな仁礼小でありたい。

(3) 職場の「心理的安全性」を大切にしたい。互いを尊重し合いながらも自分の考えや気持ちを安心して発信できるような職場を目指していきたい。

(4) 「〇〇先生、最近元気がないように感じる…」 「〇〇先生がちよっと気になる…」 など、同じ職場で共に生活しているからこそ、感じたり見えたりするものがあるはず。互いに関心をもつ職場にしたい。

(5) 大切なのは、先生方一人一人が尊重されること。そして柔らかく温かな関係性をつくりだすこと。

3 チーム仁礼で

(1) 判断に悩むような難しい場面があるかもしれない。先生が自分事として解決していくことも基本的には必要だが、職員みんなで知恵を出し合ってチームとして解決することに遠慮なく取り組んでいただきたい。

(2) 不登校や生徒指導等についても担任の先生が一人で抱え込まず、校内の組織を活用し、チームで支援していく。スクールカウンセラーや相談員などの専門機関とも連携していく。

4 子どもをよくみていきたい

(1) 休み時間に先生の周りに集まってワイワイと談笑する子どもたちがいる。その子どもたちの少し遠くにいて輪に入れない子どもたちもいる。どちらの子どもたちも大切にしたい。

- (2) 誰も見ていなくても毎日やるべきことにきちんと取り組んでいる子どもがいる。静かな子どもや目立たない子どももいる。そんな子どもたちをしっかりとみていきたい。
- (3) 先生を手こずらしたり、無理難題を持ちかけたりする子どももいる。その子のその言動の奥にあるものはなにかを考え続ける職員でありたい。

【いじめ等の問題行動の真の解決ために】

関西外国語大学 新井 肇 氏

- ①加害児童の抱える心の傷を十分に理解した上で、自分の行為の意味を心底から理解させることが必要。
- ②その過程で自分を否定的にとらえざるを得なくなる加害児童を丸ごと抱きかかえる大人（教師）の存在が求められる。
- ③保護者は、自分の子どもの失敗や過ちをないことにするのが子どもへの愛情ではなく、子どもと一緒に悩み傷つきながら、立ち直りを身近で支えていくことこそが真の愛情であると認識する必要がある。
- ④この過程を経てはじめて、加害児童の心の内に自分が大切な存在なのだという実感が湧いてくる。

5 学級経営と授業づくり

- (1) 担任の先生一人が頑張って学級をつくるのではなく、子どもたちと学級の理想を共有し、子どもたちと担任の先生が一緒になって温かく居心地のよい学級をつくっていくことが大切だと考える。
- (2) 学級の個々の児童が、自分の学級で「必要とされている感」をもてれば、自ずと子どもは育ち、その学級への参画意識は高まっていくと考える。
- (3) 授業づくりのポイントを3つ。①「教師が教える」から「子どもたちが学ぶ」、②「子どもを主語にする授業」、③「伴走者としての教師」。いつもこのようにはいかないが、いつも心の中に留めておくことは大切だと思う。

むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでもゆかいに

井上ひさし氏の言葉

6 学校支援ボランティア(地域人材)との連携・協働

- (1) 目的は、①子どもたちの活動の補助や子どもたちとの交流、②子どもたちが生まれ育った地域への愛着、③ボランティアさんのやりがいや生きがい、④先生方の負担軽減
- (2) 仁礼小全家庭と仁礼地区全戸に学校支援ボランティア募集のチラシを4月中旬に配布する。どれだけの方々が集まっていたかにはわからないが、子どもたち・先生方・保護者や地域の方々が、それぞれにwin-win（ウイン-ウイン）の関係で連携・協働を深めていきたい。

7 非違行為

- ・飲酒運転、交通違反、体罰、暴言、セクハラ、パワハラ等が絶対に起きない学校に。

8 仁礼地区に春の訪れ

- ・冬のあいだ、じっとして耐えていた動植物が、春の訪れとともに少しずつではあるが確実に新しい営みをはじめている。
- ・仁礼小学校の職員室も春を迎え、新しい風が吹いている。
- ・本年度お越しいただいた先生方。ようこそ仁礼小へ。しばらくは慣れない環境に気をつかうことも多いはず。遠慮なく会話や相談を。雑談も。

…先生方との出会いを大切に 本年度よろしく申し上げます。